



東京医科大学看護専門学校同窓会

# 同窓会便り

第28号

発行者

東京医科大学看護専門学校同窓会  
〒160-8402新宿区新宿6-1-1

TEL 03-3351-6141(内310)

印刷  同窓会事務局

発行日 2013年3月20日  
(年1回発行)



## 会長挨拶

同窓会会長 有本 キヨ子

同窓生のみなさま、いかがお過ごしですか。この会報が届くころ、花前線はどのあたりでしょう。昨年度から事務的なことを(株)同窓会事務局に委託しました。色々なことを担っていただいておりますが、住所変更に関しては直接連絡できるので、変更が確実にになりました。これを機に住所不明者が減っていくと思われます。「同窓会便り」もイメージチェンジをして、寄付金の振込用紙を同封いたしました。初めての試みでしたが、311名の方々からお振込みいただきました。心より感謝いたします。ご厚意を大切にしてください。開校50周年を迎える今年度、卒業生は3,785名になります。あらためて同窓会のこれからの検討していく必要を感じています。どのように関わりあえるのか、また、同窓会が拠点として機能するには等々、気になっております。なんとか方法を見つけないかと思っております。今年6月に総会を開きますので、みなさまと直にお話したいと思っております。これまでの50年間を礎にして、ぜひご一緒に未来を拓いてまいりましょう。





## 東京医科大学医学部 看護学科の設立にあたって

看護学科長  
岡谷 恵子

東京医科大学看護専門学校同窓会の皆様には、はじめにご挨拶申し上げます。この度は有本キヨ子同窓会会長様のご配慮で、「同窓会便り」に看護学科の開設について書かせていただく機会を与えていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

お陰をもちまして、平成 24 年 12 月 8 日付で、東京医科大学医学部看護学科の設置が正式に認可され、本年 4 月に看護学科が開設されることになりました。これもひとえに、関係者の皆様のご支援、ご厚情の賜物と深く感謝申し上げます。

東京医科大学（以下、本学という。）では、看護専門学校から大学における看護学教育への転換を図るべく、十数年前から検討が進められてきたと伺っています。当初は看護学科の設置が提案されたようですが、諸処の事情でなかなか実現しなかったようです。しかし、数年前から再び看護学科の設置についての検討が始まりました。2010 年 8 月には「看護専門学校の教育を考える会」が発足して、様々な観点から実現に向けて協議が行われ、看護学科設置の必要性を明記した報告書が理事会に提出されました。これを受け、理事会は、本学の医療の質の向上のために看護学科を設置し、看護学の教育・研究体制を充実させて、さらに附属病院の看護の質の向上と看護体制の整備に取り組むことを決議いたしました。理事会の決議の背景には、附属病院の看護師の方々、看護専門学校の教員の皆様、また多くの同窓生の熱意と支援があったと聞いています。本学に関係する看護職の皆様の大学化への思いの強さが、看護学科設置を実現させたのだと思います。

その後、学科設置申請を担う部署として看護学科設立準備室が設けられ、平成 24 年度に

文部科学省へ設置認可を申請する準備が開始されました。平成 24 年の夏以降、教育の理念と目標、アドミッションポリシー、カリキュラムの考え方と教育課程、教員の人事や看護学科棟の建設などについて具体的に検討し膨大な量の書類を整えて、平成 24 年 5 月末に認可申請を行いました。8 月から 10 月にかけて文部科学省からの十数項目にわたる指摘事項等を修正して、12 月初旬の認可に至りました。今回は、文科省内の迷走もあって、認可の通知が例年よりも遅れたので心配しましたが、無事に認可されて最初の目標を達成できたことをうれしく思っています。

平成 4 年 6 月に「看護師等の人材確保の促進に関する法律」が施行されて以来、急激に増加した看護系大学は平成 24 年度には 210 校となりました。平成 3 年にはわずか 11 校でしたから、この 21 年間で 19 倍も増えたこととなります。ここ数年は、増加のペースは落ちてきていますが、18 歳人口が減少していく中でいまだに看護系の学部や学科が増えているのは驚異的なことです。それだけに、後進の大学である本学の看護学科は、どんな特徴があるのか、何を目指しているのか、どんな魅力があるのかなど他大学との違い、本学のユニークなところをどのように示すか苦心しました。

本学科では、大学の建学の精神である「自主自学」に基づき、看護学を基盤に、自ら考え、自律的に行動し、社会を切り拓く人材を養成することを目指します。具体的には、(1) 高い倫理観と強固な使命感を持って社会に貢献できる人材、(2) キュアとケアを一体のものとして提供できる人材、(3) 創造的、自律的に考え、他職種と協働できる人材、(4) 概念化・理論化して科学的根拠に基づい

た実践ができる人材、(5) 地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割を果たせる人材、(6) 国や人種や文化の違いを越えて、世界の人々の健康問題に果敢に取り組む国際感覚豊かな人材、(7) 災害時の状況に応じた支援行動がとれる災害看護基本的実践能力を有する人材、です。

また、教育課程の特色としては、次のことを掲げています。

- (1) 科学的思考力としなやかで強靱な人間力を身につけるための教養科目の充実。
- (2) 知識をバラバラに教えるのではなく、関連した知識を統合的に学べるような科目構成。
- (3) 看護が人々の「生活」や「日常性」に焦点を当てていること、生活を支援するということの意味を強調する教育。
- (4) 学んだ知識を実際の看護現象と結び付け、知識や技術を臨床状況に活用できるように、学内で行う演習では特定の臨床状況を想定したフルスケールシミュレーションを活用した教育。
- (5) 地域の看護力を強化するための教育。
- (6) 国際的に活躍できる素地を養う教育。

本学は 3 つの附属病院を有していますので、当然、急性期医療を担う大学病院で、確実な知識と技術を実践に適用できる看護師の育成は重要です。しかし急性期医療だけでなく、地域で看護ケアを提供できる看護職の育成はこれからますます重要になると思われます。人々の生活の場である地域やコミュニティでの看護が充実し発展することが、急性期医療を効率的に提供することにつながると思います。また、希望する学生は保健師国家試験受験資格の取得も可能です。保健師と看護師は、資格は別々ですが、看護学の基礎教育においては同じ看護専門職として必要な知識や技術を統合的に学べるようにしています。

さらに、新しい試みとして、学生全員に iPad を配布し、本学の建学の精神である「自主学习」を推進するための学習環境を整えま

す。これは、情報の収集・分析・活用が効果的にできる能力は専門職として今後ますます重要になる能力だと考えてのことです。

本学科の卒業生には、専門職として生涯にわたって自らのキャリアを発展させながら、看護をライフワークとして働き続けてもらいたいと思います。そのためにも、大学院の開設を早い段階で実現したいと考えています。

本学看護学科の設置に当たり、本学の看護専門学校は平成 26 年度から学生募集を停止し、在校生の卒業を待って閉校されることになりました。看護専門学校は 50 年の歴史を誇り、これまでに 3,000 人余の卒業生を輩出して、日本の看護師養成において多大な貢献をされてきました。同窓生の皆様にとっては、ご自分の母校が無くなってしまふことになり、複雑な思いをお持ちだろうと推察いたします。本学看護学科の最初の卒業生は、看護専門学校の最後の入学生が卒業する平成 28 年 3 月の翌年の平成 29 年 3 月に誕生いたします。ここから、本学看護学科の同窓会の歴史が始まりますが、これは看護専門学校の同窓会の歴史の上に積み重ねられていくものと思っております。本学看護学科は、看護専門学校の歴史の重みを受けとめて、次の世紀に向けて、本学の新たな看護学教育の歴史を刻んでいきます。

本学看護学科の教育・研究・地域活動に対しまして、看護専門学校同窓会の皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。本学看護学科が抱く夢や希望を同窓生として共有していただければ幸甚に存じます。皆様のますますのご活躍とご健勝を祈念いたしております。





## 同窓会役員になって

大友 紀子 27 回生

同窓生の皆さまこんにちは。今年度より同窓会の書記を引き継ぐことになりました 27 回生の大友です。私は卒業後ずっと東京医科大学病院で勤務を続けてきましたが、本当に月日が経つのは早いもので、東京医科大学看護

専門学校を卒業し、もうすぐ 20 年が経とうとしています。時々学生時代を思い出し、懐かしく思いながらも日々の業務に追われ、今までほとんど同窓会に関ることなく過ぎてしまいました。東京医科大学看護専門学校は、2013 年に創立 50 周年を迎えます。このような年に役員を務まるのか不安ではありますが、先輩方にご指導いただきながら同窓生の皆さまのパイプ役としてお役に立てたらと思います。よろしく願いいたします。



## 主任になって・・・

大島 久美 30 回生

30 回生の皆さん、ご無沙汰しています。

お元気にお過ごしでしょうか？

私は東京医大病院に入職以来、助産師として産科病棟で勤務し、平成 24 年 4 月より主任になり、指導係をしていた時とは違った気持で日々過ごしています。主任としての仕事は何なのかと毎日試行錯誤ですが、楽しく仕事に励んでいます。

助産師として様々な患者さんと接していま

すが、そこから多くのことを学んでいます。産科では助産外来を実施していて、外来診療で重要な役割を担っていると思っています。医師には話せないことを助産師に訴えてくれ、医師とは違う視点で患者に関わっています。患者の気持ちを酌みつつ、医師と連携して妊産婦を支えていくことに苦勞することも多々ありますが、とてもやりがいのある毎日です。

主任として師長をサポートし、病棟管理に関わる一方、私は一人の助産師として患者さんと接していきたいと思っています。

病院では同期も 3 人（西沢さん、狩野さん、私）になってしまいましたが、これからも切磋琢磨して頑張っていきたいと思っています。



## 主任という大役を担って

中野 彩子 31 回生

今年度より主任として 16 東病棟に配属され、自分の役割や存在がどうあるべきかを考えながら日々業務に就いています。主任の役割は師長の補佐と、スタッフ教育が主だと考えます。

初めのころは背負うものが大きすぎて、自分に勤まるのだろうか戸惑いもありました。しかし、新任ということもあり、仕事量を考慮されてのスタートだったため、気持ちに余裕を持ちながら業務に就くことが出来ました。

現在は、少しずつではありますが師長とタッグを組んで、スタッフ皆が生き生きと看

護ができるような環境造りに力を入れています。問題や課題もたくさんありますが、皆で協力し合い構築していくことを心がけ、個人個人が対処行動をとれるように段階を追った教育方針を立てていこうと考えています。

今年度より早期離職予防のための対策として、新採用者教育サポートシステムが立ち上がりました。その教育を終了してからの教育は各病棟に一任されていますが、看護職としての成長はここにかかっていると言っても過言ではありません。

現任教育を担う主任として、段階の人も教育する立場の人も迷わないよう方向付けをしていかなければならないと考えます。責任は重大ですが、引き受けた以上は自分なりに役割をこなしていけるよう頑張りたいと思います。



### 感謝の気持ちとともに... 主任職となって

佐藤 孝子 (旧姓 稗田) 35 回生

同窓生の皆様、35 回生の皆様、こんにちは。  
平成 13 年に東京医科大学病院に入職し、NICU 病棟に配属され、周産期看護に魅了され、現在に至っております。その間に、私も母となりました。自分自身が母となって、母を援助すること、家族の変化を支えることの大切さを身を持って実感しました。社会的な問題となっている虐待の問題も、リスクが高いといわれている対象を目の前に自分や周囲の父母たちと重ね合わせ考えさせられることが多くあります。自分の経験を糧に、少しでも児とその家族の力になりたいと願い、最善を模索しながら看護実践する日々です。

主任という役職の打診を頂いた時、その責任の重さにお断りしたいと思っていた私の背中を押して下さったのは、視野を広く持ち、数年先のビジョンを持たれている師長さんでした。自分の価値を認めて下さり、成長のステージを準備して下さったことに感謝し、自分ができることを 1 つずつ頑張ろうと心に誓い主任職をお引き受け致しました。働きやすい職場作り、チーム医療の推進、看護の質の向上、主任として担う業務や活動の多さに必要な事を見失いそうになる時もありますが、同僚に支えてもらいながら日々を過ごしています。

看護師である私を誇りに思ってくれている家族に感謝し、自分にできることを全うしていきたいと思っております。成長し続けられる自分でありたい、未熟な私ですが、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



### 認定看護師として 頑張っています。

杉野 由佳 看 31 回生

こんにちは。卒業からいつの間にか 16 年、新生児集中ケア領域での看護に没頭しておりました。今回は同窓会便りということで、久しぶりに学生の頃に思いをはせてみました。助産の道に憧れ、しかし思うように勉強もできず、肝心な試験ではいつも過緊張、そして助産受験は全滅、しかも卒試も国試もギリギリラインで通り抜けた、そんな苦い記憶があります。と同時に当時、いつもそばで励まし支えてくれた仲良しとの楽しい思い出や笑顔の面々も思い浮かびます。皆さん、いかがお過ごしでしょうか。私はあれから、ハイリスク新生児の看護に熱中し、助産の道に行くはずでしたが、今では新生児集中ケア認定看護師として NICU の親子への最善の看護を追求する毎日を送っています。資格取得後、早 6 年

を迎え、1 回目の資格更新も無事済ませることができました。「ベストを探そう！実践しよう！」をモットーに自分自身が最善の看護を丁寧に実践することを大事にしています。そして患者さん、そのご家族を含めたチーム医療のすべての仲間と共に切磋琢磨し連携していくことに看護の楽しさを感じながら過ごしております。最近の NICU はというと、なぜだか自然多胎妊娠が例年にない程とても多く、双子ちゃんたちが沢山 NICU に入院してきます。

一昨年、日本は大きな災害によって沢山の命を失いました。そして今、沢山の子どもたちが、この世に生まれてきています。こうした摂理を目の当たりにしながら、人間の命を紡ぎ続ける力を感じて、そして一人一人の子どもたちの潤んだ力強い眼差しを見つめると、とてもとても大切な命だと実感する毎日です。

これからも、仲間と共に看護の楽しさと感動を分かち合える看護師でありたいです。皆さんも、どうかお元気で。

**47 回生の同窓会入会を歓迎いたします。**

## 多職種協働で活動している 総合相談・支援センター

宮崎 歌代子 8 回生

同窓生の皆さま、そして、クラス会で楽しいひと時を共に過ごしました 8 回生の皆さま、お変わりなくお過ごしでしょうか。

患者支援部門として新たな歩みを始めた総合相談・支援センターをご紹介します。東京医科大学病院では、これまで別個の部署として動いておりました「在宅医療支援室（看護部）」「医療福祉相談室（事務部門）」「医療連携室（事務部門）」「受診科相談（看護部）」「苦情・クレーム相談（病院管理部）」を改組・統合し、業務の効率化・円滑化を図ることを目的に、平成 23 年 8 月 1 日、総合相談・支援センターを設置いたしました。患者・家族への相談・支援窓口の一本化による“ワンストップ・サービス”で、医師 3 名、保健師 4 名、看護師 4 名、医療ソーシャルワーカー 8 名、事務職員 10 名の多職種連携で業務を担っております。その中で、看護職は主に患

者の「家に帰りたい」思いを叶えるため退院調整に力を注ぎ、患者さんとご家族が、退院後の療養生活を安心して送ることができるよう支援しています。

私も看護以外の職種と一つの室で仕事をするのは初めてです。目標を共有し、専門職あるいは専門的業務を担当している者それぞれがレベルの高い知識・技術を結集する。そして、それぞれの役割と責任について共通認識をもち、互いの強みを活かしたり、補い合う姿勢、さらに専門的業務を単なる分業に留めることなく、職種間の連携・協働で患者・家族に向けて再統合していく様は、多職種連携の職場ならではの醍醐味だと感じています。

東京医科大学病院は創立 100 周年(2016 年)に向けて、新病院建設が進んでいます。私たちもこれまで以上に患者中心の質の高い支援を提供するために、新しい取組みを模索していく必要があると考えています。まだまだ課題は多いと感じますが、センターの役割が果たせるよう、チーム力を信じて今後も研鑽を積んでいきたいと考えています。

## 東京医科大学病院

### 看護部教育担当部署の活動

中川 八千代 15 回生

平成 23 年 4 月より、教育担当として勤務しています。スタッフは現在、師長 2 名、主任 1 名、指導係 1 名です。教育担当の主な活動は、東京医科大学病院の看護の質の向上をめざすため、看護師や看護補助者の院内研修の企画、運営を行っています。

今年度の運営する研修は 50 項目以上にも及びます。特徴として、認定看護師等が増加してきていますので、院内講師による研修が増えている事です。講師の学びにもつながっています。また、研修のほとんどが勤務時間内に実施しているため、受講生も集中して参加でき効果的な研修となっています。

新人看護師の早期離職が課題になっている昨今、当院では今年度から教育担当の指導係が新人教育担当専従として活動しています。

新人との個人面接を通して仕事や生活上の悩みを一緒に考え解決して行くことで、新人看護師にとっての心のよりどころとなっているようです。また、4 月から 7 月までは、スタッフ 4 人で毎日病棟巡視を行い、新人看護師に声をかけながら状況を見て回りました。このことで新人看護師を指導する現場の状況も知ることが出来、これからの教育企画に活かして行きたいと考えています。

高齢化が進む中、これからますます看護の需要は高まります。また看護師としてのキャリアを考えていく人が増えている今こそ、中堅看護師の活躍の支援が必要と考えています。

東京医科大学の「自主・自学」をモットーに、『業務が出来る看護師』から『看護が出来る看護師』の育成を目指し、これからも 4 人で協力して頑張っていきたいと思っています。

(前列左)





### 卒業後の経過と近況

山田(旧姓岡本)光子 5回生

看護専門学校が50周年を迎える事をうれしく想い、又卒業して40年を過ぎている事に感慨深いものを覚えます。

私は、卒業後の数年間病院と看護学校で働かせて頂きました。その後理想と現実とのほざまから違う世界を覗いてみたいと商業デザイン科の短大生として学生生活を過ごしました。

結婚して横浜で30年以上が経ちました。専業主婦として子供二人を育てていく上にとっても看護の知識と経験は、肺炎、中耳炎、骨折など又、男と女の児との違いなど日々貴重

なものとなって生活の中で大いに役立ちました。子供達が社会人となり時間的余裕が持てるようになった今、日本画を楽しんでいます。やっと小さな賞を頂いたり、グループ展等を開いたり、自分なりに四季折々の中で見つけた小さな花や生き物をスケッチして描いています。又、お茶の稽古にも励んでいます。ささやかな変化を感じ愛で表現するという共通した楽しみがあるように思えるからです。

皆様の一所懸命な看護への取り組みが50周年を迎えられさらなる発展となることと思います。5回生も小さな会を時折楽しむことが出来るようになりました。やはり3年間寮を通して培った絆は何年経っても強いものを感じます。一つの目的を持ち看護という学問を学んだ皆様それぞれがお元気で過ごされる事を心より願っております。



### 近況報告

神林(旧姓栗原)峰子  
15回生

(前列左)

15回生Bクラスの神林です。卒業して早30年、現在岩手県釜石で暮らしております。

ご存知のように大震災の被災地にあたる釜石では一年以上たつ現在も建物の解体が続けられている状況ですが、人々の暮らしは少しずつ落ち着き始めています。幸い海より10キロ以上内陸に家があり津波を見る事もなく、不便な日々はありましたが、家族も皆何もなく済むことができました。

情報が遮断された中で全国各地の方々に助けられ、私事ではありますが、ご心配を頂いた方々被災地に援助を頂いた方々に、この紙面をお借りして、感謝とお礼を申し上げます。

話は変わりますが、同窓会会報誌やホームページなどを見るたびに気分は学生時代にタイムスリップし懐かしい気持ちになります。

入学時、学校は旧病院の敷地内にあり、その後大学の敷地内に変更されました。卒業後学

校を訪れることもなく今も変わらない校舎でしょうか？

いつの頃からか男子学生さんも入学されるようになり、その数も増えてきているように思います。一般病院でも男子看護師さんの活躍も当たり前になってきていますね。・旧病院でしか勤務したことがない私はいつも思い出すのは古く少しひんやりとした感じの病棟・病院です。

めまぐるしく変わる医療環境の中、現在も第一線で現役・バリバリと仕事を続けている同級生も多くただただ尊敬するばかりです。

15回生は定期的に同窓会を企画してくれる幹事役の友人のおかげで去年もたくさんの同級生と旧交を温め、お世話になった先生にもお会いすることが出来ました。その後は希望者で箱根まで足を延ばして楽しい時間を過ごすことが出来ました。

何かとご尽力下さる同窓会役員の方々に感謝致しますとともに同級生の皆様のご活躍をお祈りしています。





## 戴帽式を終え

せり あいか  
善利 愛佳 48 回生

看護の道を志して一年が過ぎ、私達 48 回生は 6 月に戴帽式を迎えました。クラス全員がナースキャップを頂き、キャンドルに火を灯し、ナイチンゲール誓詞を誓ってこの日を迎えられた喜びと共に看護師になる決意を新たにしました。ナースキャップというのは看護師の象徴であり憧れでもあります。そんな重みのあるナースキャップを頂き心から喜びを感じる反面、強い使命感も感じました。ナースキャップを手にしたということは、私たちも医療従事者の一人であること、生命と向き合

う職種であることを強く実感しました。

7 月には基礎看護学実習Ⅱを終え座学では学ぶことのできない貴重な経験をさせて頂くことができ一生涯忘れることのできない充実したものとなりました。キャップを頂いて初めての实習はとても身が引き締まり、責任感と使命感にあふれたものとなりました。日々勉強を重ね沢山のことを考え学ぶにつれ看護師という仕事の素晴らしさ、やりがいを感じています。

これから先、辛い事くじけそうになることもあると思います。そんな時は戴帽式でナースキャップを頂いた時のことを思い出し、一歩ずつ前に進んで行こうと思います。将来素敵な看護師に成れるよう沢山のことを学び成長していきたいです。



## 私の近況報告

早川 (旧姓古庄) 正子 30 回生

みなさん。ご無沙汰しております。30 回生早川正子です。在学中、在職中お世話になりました皆様、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

私は現在「生命教育アドバイザー」として「性の健康教育」をしたりベビーマッサージやタッピングタッチを通して「触れ合い＝愛」を伝える仕事に携わっています。この職の名は自分でネーミングしましたので、皆さん初めて聞くと思います。自尊感情向上を目指し、こころとからだの関係を豊かにする生命教育をしています。リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点を大事にし、行動変容へ結び付く事を目標に「いのちの大切さ、親子の触れ合いの大切さ」をお伝えする専門家です。主に、幼、保、小、中、高、その保護者や産後の女性、養護教諭等にお話しをさせて頂いています。平たくいうと「自分のいのちの大切さや価値」に気づいてもらう事を第一目標に性の健康教育をしています。

東京医科大病院を退職し、結婚してからも看護師の仕事の続け、日々「命」と向き合っ

てきました。そして自身の不妊、流産、妊娠、出産を経験しました。様々な経験は私の今の仕事の原動力となっています。なかなか子どもを授からない時に「命を授かる事」とはどういうことか勉強しました。身体の仕組みの素晴らしさや妊娠の確率を知ると命が奇跡だという事や自分の事が好きでない人のところに赤ちゃんこないよね。と自己肯定感の大切さに気づきました。

この経験と日々仕事で命の大切さと向きあい、「性の健康教育のプロになろう」と思い、出産してから資格をとり、この仕事に携わり 5 年目になりました。

性の健康教育は日本ではマイナーな教育分野ですが、今、国民全体で意識の改革が必要なのではないかと思っています。子ども達を取り巻くニュース、中でもいじめや自殺、10 代の性感染症罹患率、中絶数の上昇、鬱など精神疾患の増加。これらの背景には「自尊感情の低下」(自分の事が好きという気持ち)が大きく関わっています。これをひも解いていくと乳幼児期の母親との関わりが人間形成でいかに重要かが見えてきます。産後の女性の現状でいえば、産後の育児の本は沢山ありますが、産後の母親に対するセルフケアに関する情報は乏しく、助産院で産む以外、産後の母に対するケアは充分とは言えない現状が



あります。新しいいのちを育てていく過程のケアが充分でない日本の現状をなんとかいい方向にかわらないかと思い自分にできる事から始めました。

子どもは未来の大人です。今、子育てをしている私達が性や命に対する意識改革をして、いきいき暮らしていることこそ、子ども達への最大のギフトだと私は思います。

日本は先進国の中でも自尊感情の低い国民です。物質的には豊かになりましたが、生き方の多様性は制限され、人間同士のコミュニケーション関係はどんどん貧しくなっていると感じます。医療も進歩していますが、患者の数は減りません。情報量も増えましたが、どれが正しい情報かリテラシーの視点が求められています。医療では解決しきれない「知恵」が求められているのではないのでしょうか。

日本では「性」を恥ずかしいとする国民で、性教育バッシングがあります。そして性の健康教育をする専門家が誰なのか決まっています。(教師、医師、保健師、助産師、看護師、養護教諭)

自分の心と身体を知る事は権利とされ、性の健康教育が進んでいるオランダ、ドイツ、スウェーデン、ではヘルスプロモーション(健康増進)の一環として性を取り扱っています。これらの国に共通している事は皆、自

尊感情が高く、性的虐待、中絶数、自殺、性感染症罹患率が低いという事です。

「性の健康は栄養学的な健康となんの違いもない。知識があれば身を守る事ができる。自分の身体について学ぶのが恥ずかしいわけがない」とカナダの性教育の第一人者メグヒックリングさんが言っています。「自分の命の価値、自分の身体の仕組みの素晴らしさ、性の大切さ」を習っていない大人達から意識改革をして、子ども達に明るくポジティブに伝えて行きましょう。まずは自分の誕生が素晴らしいという感動。そして二次性徴、大人になる事は次に命をつなげる事で素晴らしい事、受胎教育、出産教育、避妊教育、性感染症防止教育と順を追って伝えていく教育が日本でスタンダード教育になる事を願ってやみません。科学をベースとしたいのちと性の健康教育をする事で自己肯定感向上を目指し自分の人生を自分でプロデュースできる人が増えますように。「生まれてきて今ここにいること。生きているからこそ触れ合えることこそすごいんだ」と沢山の人間に心で感じてもらえる事が私の喜びです。

いのちの話が家庭でも親子で豊かにできる日本になるといいです。まずは医療職である私達からいのちの大切さを伝えていきませんか。

## 平成 24 年度東医祭開催される

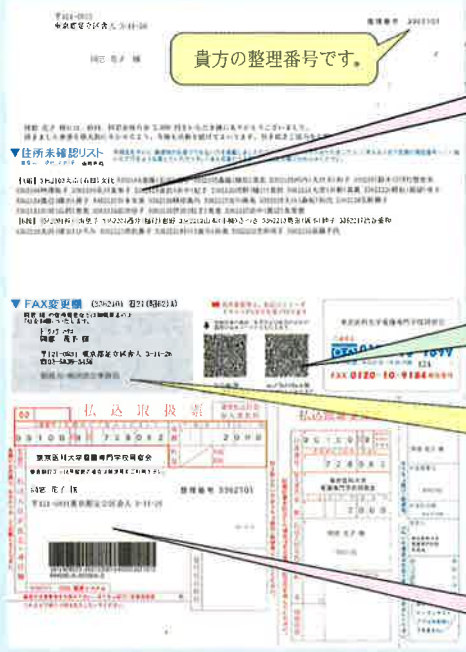
東医祭実行委員長 医学部 4 年  
市原 琢己

平成 24 年度「東医祭」が、去る 11 月 2 日(金)～11 月 4 日(日)に新宿御苑キャンパスにて開催されました。今年はロンドンオリンピックがあったこともあり「夢」というテーマを設け、伝統ある東医祭を将来のビジョンとして、毎年恒例の内科模擬健診や医学展示に去年以上に力を注ぐということで、夢を表現いたしました。もちろん他にも前夜祭をはじめとして、赤枝恒雄先生による講演会、応援団によるリーダー公開、芸人さんによるお笑いライブ、学生の太鼓による演奏、メディカルアンサンブル部による演奏会、心肺蘇生の講習会の開催など様々な企画で東医祭を行いました。今年は学校のグラウンドが人工芝に変わったということもあり、それを意識した学祭作りを行って参りました。

例年の東医祭は医学部の学生が中心という形で夜のイベントを行って参りましたが、今年は看護の学生からの要望もあり、前夜祭などへの有志の参加など学祭を大いに盛り上げて頂きました。これからは医学部と看護とをもって一体となって学祭を行って行きたいと思っています。

本年度の東医祭も多くの方に支えられて開催することができ、感謝の言葉は尽きません。来年度以降もより充実した東医祭になるように努めて参りたいと思いますので、皆様のより一層のご支援、ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

同封物の見方



貴方の整理番号です。

現在、住所が判らず会報誌がお届けできない方々です。貴方の同期に近い方と、ご近所の方を抜粋しました。ご存知の方は、情報をお寄せいただくかフリーダイヤルまでご本人よりご連絡いただけるようお伝え下さい。また、ご提供いただきました情報の取り扱いについては細心の注意を払っておりますので、安心して情報をお寄せ下さい。

携帯電話専用のQRコードです。あなたの登録情報の確認・変更ができます。

現在、同窓会でお預かりしている貴方の情報です。住所・お勤め先が変わられた方で、FAXをご利用の際ご利用下さい。尚、封筒表紙もご利用できます。

同窓会協力金の振込用紙です。ご協力お願いします。



情報記入欄  
住所未確認者をお知らせいただくのにご利用下さい。

お近くのコンビニエンスストアまたは郵便局をご利用ください。金額変更時は郵便局でお願いします。

§ ∞ ☆ 編集後記 § ∞ ☆

◇看護学科新設、新たに生まれてくる様々をわくわくして見守りたい。共に学んだ一人でも多くの同窓生に会報を届けたい。住所不明は1,000余名にも。(あ)

◇寒く雪の多かった冬でしたが、少しずつ近づいて来る春が楽しみです。会報により、学校や病院状況が皆さんに届けられ、温かい気持ちになれば幸いです。(う)

◇平成25年4月に東京医科大学看護専門学校は第50回生を迎え、医学部看護学科が開校される節目の年となります。私達同窓会役員が一丸となって“同窓生の匂”をお届けできるよう取り組んで行きたいと思います。(も)

・ 同窓会協力金募集 ・

1口 2,000 円のご協力をお願いします

同窓会の運営費は毎年卒業時に終身会費として頂くことによって賅われていますが、年々会員は増大し3,700人を超えています。会報費、通信費などの運営費用の捻出に、苦慮しているのが現状です。是非とも協力金をお願いいたします。

住所変更は2つの方法で

昨年より個人情報保護に配慮し、プライバシーマーク認証業者の株式会社同窓会事務局へ会員情報の管理、会報発行を委託しました。それに伴い、同窓会事務局専用の受付電話・FAXが開設されています。住所が変わられた方は、下記の方法でお知らせ下さい。

フリーダイヤル 0120-10-9899 内線124番 平日10:00～17:00  
フリーFAX 0120-10-9184 終日受付

